

2016年邦人被害概況

1 邦人被害の特徴

(1) 全体的特徴

ア 2016年、在メキシコ日本国大使館及び在レオン日本国総領事館に届けられた邦人被害の犯罪発生件数は、132件であった。2015年の85件と比較し、55%増加した。被害の多くは、窃盗(97件)で、そのうち車上ねらいが、昨年の22件から39件、スリが8件から23件、置き引きが10件から15件、侵入窃盗9件から14件へといずれも増加した。

イ 強盗事件については20件発生し、強盗致傷に至ったケースが7件発生した。強盗犯にナイフで刺され重傷を負ったケースや、言葉の問題から強盗に遭っていることに気がつかず、無反応であったがために暴行を受けるといったケースがあった。前述のとおり、強盗事件等に遭った場合は、抵抗する・大声をあげる・逃げる等、犯人を刺激するような行動を行った場合、身体に危害を加えられる可能性が非常に高いため、くれぐれも避ける必要がある。

ウ 発生地域別では、メキシコ市が33件(前年比1件減)と、ほぼ横ばいであったが、グアナファト州が53件(前年比34件増・約2.7倍)と大幅に増加した。

メキシコ市では、スリが17件と、市内の被害の約半数を占め、2016年の国内全体におけるスリ被害の約74%がメキシコ市内で発生した。主に、公共交通機関における被害が多く、注意をしても、前後から犯人が被害者を挟み、一瞬の隙を突いて犯行に及ぶものもあった。混雑する時間帯・路線においては特に注意が必要である。また、同一犯と思われる詐欺被害が定期的に発生している。

グアナファト州においては、53件の被害のうち、窃盗が36件を占め、中でも車上ねらいが27件(52%)発生したが、これは、2016年の国内全体における車上ねらい被害38件のうち約71%がグアナファト州内で発生したこととなる。車内にスーツケース等荷物を残さないことはもちろんであるが、ダッシュボードやトランク内の荷物を整理し、仮に車をこじ開けられた場合でも、物損被害に留まるようにするほか、駐車場所や行動する時間帯等日頃から注意し、被害防止に努める必要がある。

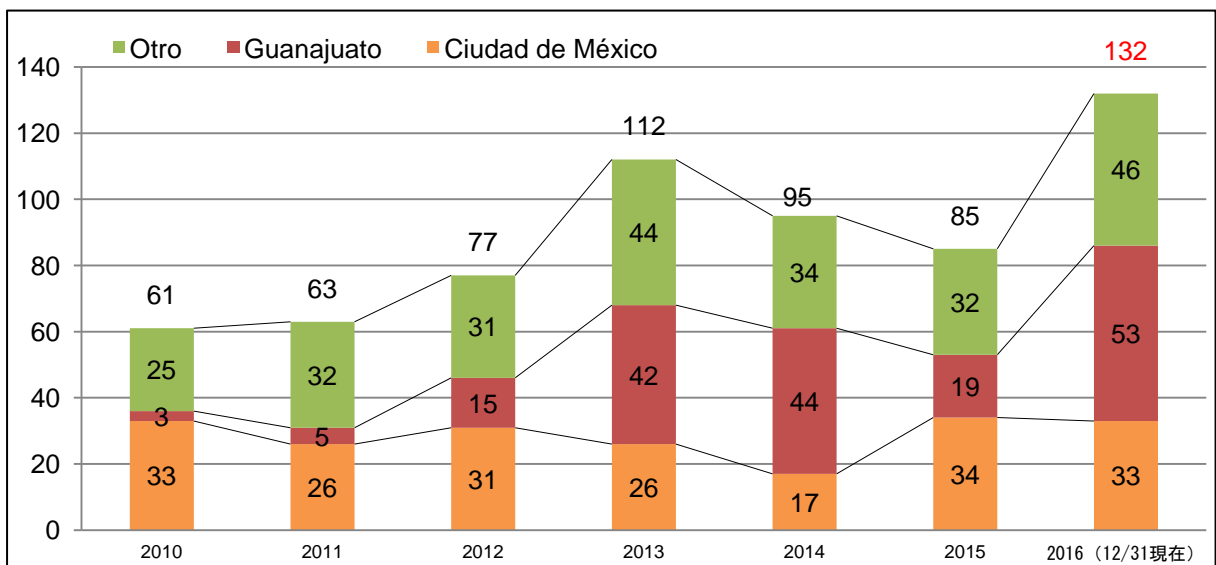


表1 (邦人被害件数)

(2) 地域別特徴・傾向

ア メキシコ市

- a 前述のとおり、メキシコ市において 33 件（前年比 1 件減）の邦人被害が発生した。
（なお、2016 年にメキシコ市検察庁に届けられたメキシコ市全体の犯罪被害通報件数は、197,578 件で、前年比 7,705 件増加（+4.1%）した。殺人 952 件（前年比+98 件）、誘拐 46 件（前年比-9 件）、ATM や銀行利用後の強窃盗 393 件（前年比-167 件）、タクシーの乗客に対する強盗 177 件（前年比-44 件）であった。また、地下鉄利用者に対する強窃盗が 738 件、マイクロバス利用者に対する強窃盗が 728 件、その他の公共交通機関利用者に対する窃盗が 1,050 件それぞれ発生しており、公共交通機関の利用については十分注意する必要がある。）
- b メキシコ市においては、路上強盗 3 件、タクシー利用者に対する強盗（詳細不明）1 件、暴行傷害 1 件、その他窃盗被害が 26 件（スリ 17 件、置き引き 4 件、ひったくり 2 件、侵入窃盗 2 件、ほか 1 件）、詐欺被害が 2 件発生した。
- c 被害の発生場所は、クアウテモック区が 21 件と全体 33 件のうち 6 割以上を占めた。特に、地下鉄やメトロバス等の公共交通機関内におけるスリ被害や、セントロ・ヒストリコ地区における強盗・スリ被害が目立った。次いでコヨアカン区 4 件、ベステリアノ・カランサ区（空港）及びイスタパラパ区各 2 件、その他市内不詳 4 件であった。
- d 昨年に引き続き、自称米国人による詐欺（未遂）被害が 2 件発生した。犯人の手口は、「スリ（窃盗）被害のため現金をなくしたが、重要な会議のためすぐに米国に帰国する必要がある。妻から送金させるのでお金を貸して欲しい」といったものであり、英語が話せる外国人を狙って犯行に及んでいるとみられている。

イ グアナファト州

- a グアナファト州の被害は 53 件（前年比+34 件）と大幅に増加した。
- b グアナファト州においては、窃盗が 41 件（車上狙い 30 件、置き引き 4 件、侵入窃盗 4 件、スリ 2 件、ひったくり 1 件）と全体の 77%を占める一方、9 件の強盗事件も発生している。
- c 被害の発生場所は、レオン市 29 件、イラプアト市 9 件、セラヤ市及びシラオ市各 5 件、グアナファト市 3 件、サラマンカ市 2 件であった。

ウ その他の地域

- a その他の地域では、アグアスカリエンテス州 9 件、キンタナロー州 6 件、メキシコ州 5 件、ヌエボ・レオン州 4 件、ハリスコ州、バハ・カリフォルニア州、オアハカ州各 3 件、ケレタロ州、サンルイスポトシ州、バハ・カリフォルニア・スル州、チアパス州各 2 件、サカテカス州、コアウイラ州、チワワ州、コリマ州、タバスコ州各 1 件であった。
- b 上記の地域における被害は計 46 件（全体の約 35%）発生しており、前年比で 12 件増加した。被害の多くは窃盗犯（37 件・約 80%）であったが、強盗が 7 件、恐喝が 1 件、詐欺が 1 件発生している。

2 邦人被害件数

(1) 被害届出件数

132 件（前年比+47）

本集計は、当館に届け出があった件数であり、大きな被害が無かった場合等は大使館に被害の届け出を行わない可能性もあるため、実際の被害件数はこれより多いものと考えられる。

(2) 犯罪手口

強盗	20件 (+4)	※凶器使用15件 (うち、けん銃使用8件)
暴行傷害・恐喝	6件 (+2)	
詐欺	3件 (-8)	
窃盗	103件 (+50)	
※うち、車上ねらい	39件 (+17)	
置引き	15件 (+5)	
空き巣等侵入窃盗	14件 (+5)	
すり	23件 (+15)	
ひったくり	7件 (+7)	
窃盗その他	5件 (+1)	

強盗被害20件は、ほとんどが凶器を使用(拳銃使用8件、刃物使用7件)したものであり、日出中11件、日没後9件と、昼夜の別なく発生している。更に、被害者が何らかの怪我を負った事件は7件であり、声を上げたり、急な動作をするなど明確に抵抗していなくても、犯人に危害を加えられ、重傷を負う事件も発生していることから、不幸にして強盗の被害に遭った場合は、落ち着いて犯人の要求に従い、急な動作(声を上げたり、急に立ち上がるなど抵抗したとみなされるような行為)を避けるなどの注意が必要である。

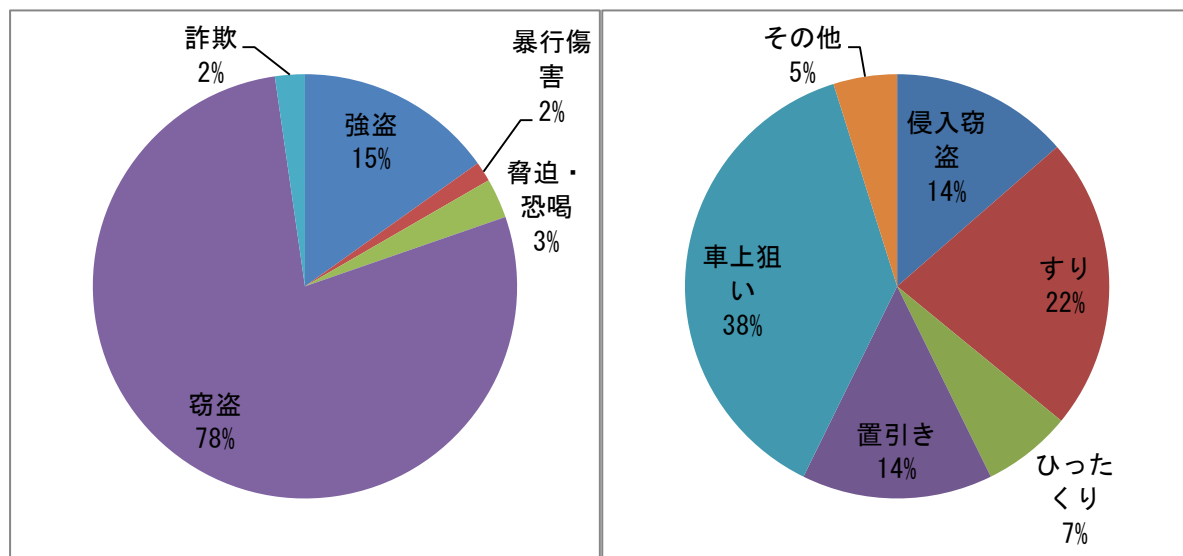


表2 (被害の種類別割合)

表3 (窃盗の手口別割合)

(4) 発生場所別

路上・駐車場等屋外	73件 (+27)
自宅等	19件 (+7)
飲食店・商店	15件 (+6)
空港・バスターミナル	4件 (+1)
地下鉄	11件 (+7)

長距離・近郊バス	6件 (+ 4)
メトロバス	2件 (+ 2)
銀行・A T M等	2件 (+ 2)

(5) 被害者別

長期滞在・永住者	90名 (+ 24)
短期渡航者 (観光)	30名 (+ 13)
短期渡航者 (出張)	11名 (- 2)
その他	1件 (- 1)

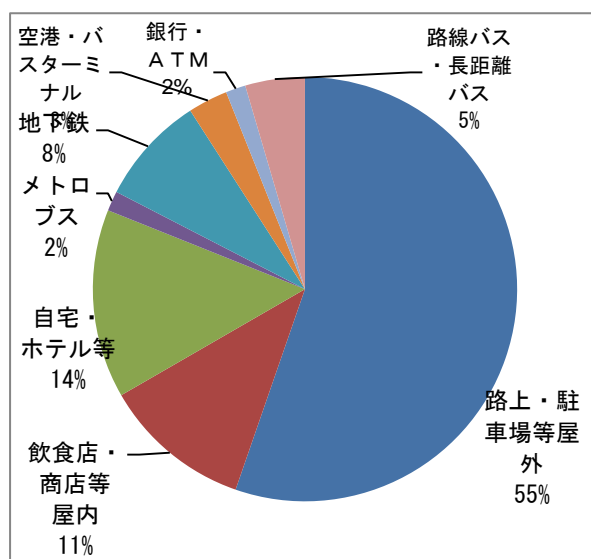


表4 (発生場所別割合)

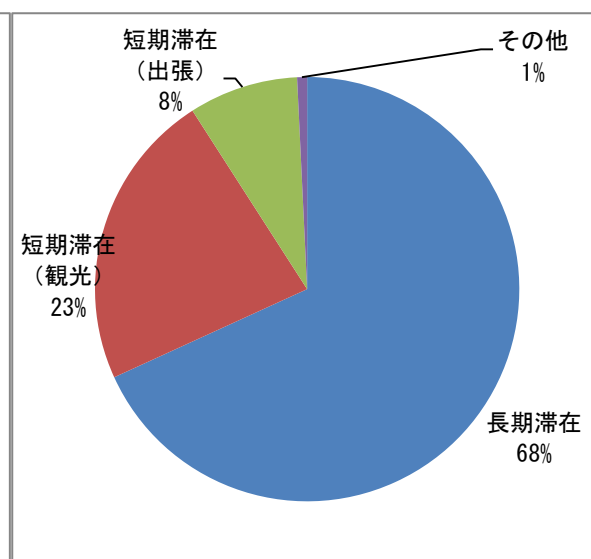


表5 (滞在形態別割合)

被害の詳細については、[「邦人被害一覧」](#)をご参照ください。

以 上